

令和2年度 N I E活動実践報告

鹿児島市立谷山小学校

1 はじめに

本校は、平成30年度に、日本新聞協会からN I Eの実践校指定を受け、研究を始めたところである。校務分掌にも「N I E担当」が位置付けられ、年3回の部会を通して、本校のN I E活動の実践を広め、児童の学力向上につなげようとしている。

さらに、本校の研修テーマである「伝え合う力の育成」の実現に向けた一つの取組として、教科・領域との関連性や有効な活用方法を探りながら、実践・検証を進めていくこととした。

2 実践内容

- (1) 学習指導要領に基づいた教科・領域での活用
- (2) はがき新聞の活用
- (3) 本校研究テーマと関連させた活用
- (4) N I Eタイムの設定（学期に1回）
- (5) N I Eコーナーの設置
- (6) 親子での取組（ファミリーフォーカスの取組）

3 実際

- (1) 学習指導要領に基づいた教科・領域での活用

まず、今年度は新型コロナウイルスの影響で、新聞記者を招聘しての出前授業を行うことができず、新聞を活用しての授業実践のみ行った。

① 第4学年国語「新聞をつくろう」

本校で購読している各社の新聞の第一面を活用し、第一面の新聞の割り付けや新聞記事の構成、書く時のポイントを教科書と関連付けながら学んだ。それぞれの新聞社によって、第一面の割り付けの仕方が違うことに児童は気づき、そのことを自分たちの新聞を作る際に生かして記事にしていた。また、実際の記事を読むことで、自分の記事の書き方にも生かすことができた。

② 第5学年国語「新聞を読もう」

第4学年と同様に、実際の新聞を活用して授業を行った。実際の新聞を扱って授業を進めることで児童の興味を高めることができた。記事のジャンルによって、書かれ方が違うことに気付くことができた。単元の終わりでは、新聞記事から自分の興味ある記事を選び、分かったことや考えたことを伝え合う活動を行った。

- (2) はがき新聞の活用

昨年度までは、はがきコンクールを実施するにあたって、一定期間のみで取り組んでいたはがき新聞を、今年度は第4学年以上に、社会科を中心とした各教科において単元の最後に、はがき新聞でまとめる活動を、年間を通して継続的に取り組んだ。限られた字数でまとめるため、同じ単元であっても見



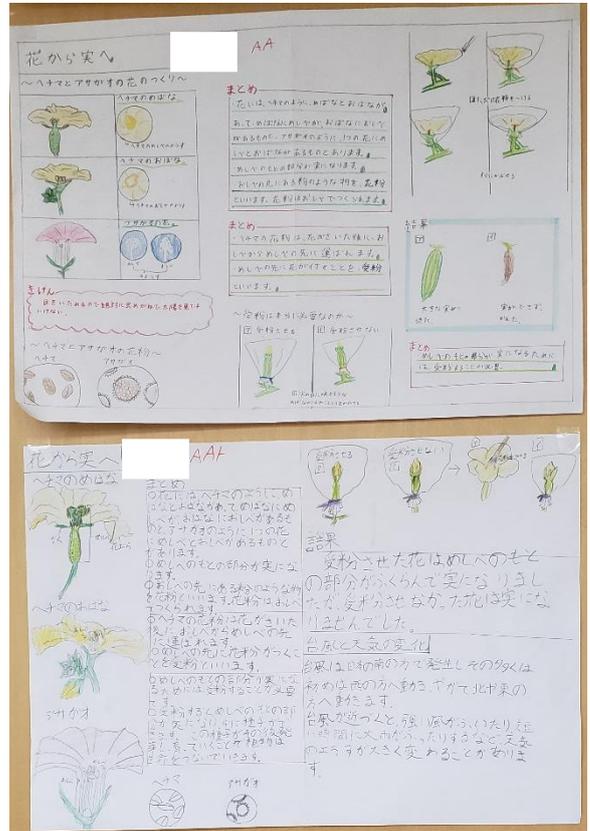
【写真1 はがき新聞の掲示】



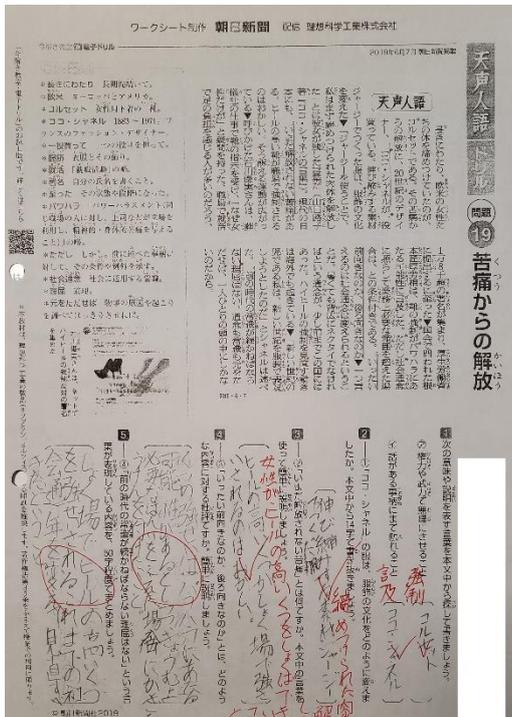
【写真 2, 3 同じ単元での児童によるはがき新聞の違い】

(3) 本校研究テーマと関連させた活用
 本校では「伝え合う力の育成」を研究テーマに、国語科を中心に研究実践を行っている。今年度は、児童の語彙力や表現力向上にポイントを絞ってNIE活動を行った。各新聞社が提供しているワークシートを全学年で取り組み、言葉の意味調べや記事の読み取り、視写などを児童の実態に応じて実施することができた。

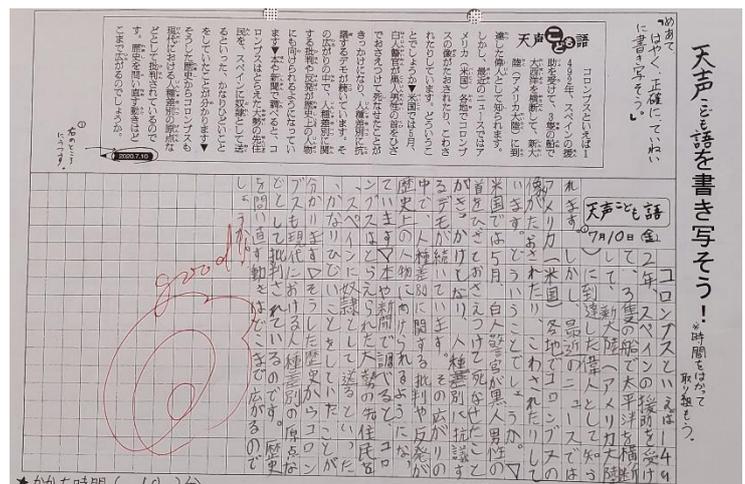
童によって内容が様々で、完成したはがき新聞を児童同士で読み合い、次の単元での新聞作成に生かしていた。また、はがき新聞以外でもB4サイズで新聞にまとめることも行った。



【写真 4 B4サイズの新聞（理科）】



【写真 5 記事の読み取り】



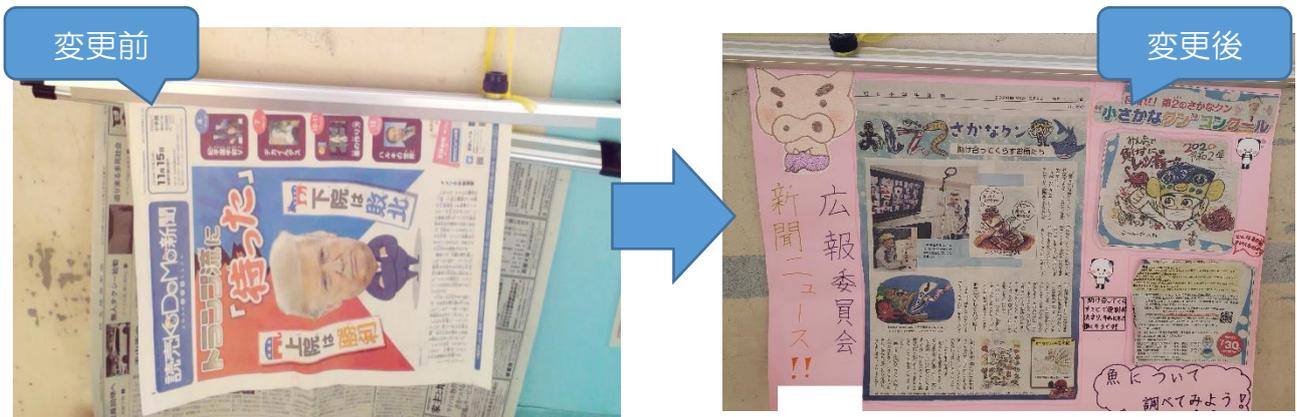
【写真 6 コラムを活用した視写】

(4) N I Eタイムの設定

学期1回、朝の15分間をN I Eタイムとして設定した。各学年のN I E系の職員を中心に学年に応じて、上記のワークシートへの取組やファミリーフォーカスのための記事選び、選んだ記事の紹介等を行った。

(5) N I Eコーナーの設置

児童の委員会活動と連携して、新聞の設置の仕方を変更した。昨年度までは廊下に、新聞を読むことができるよう設置していたが、より児童が興味をもてるよう、広報委員会の児童が新聞から興味を引くような記事を選び、大体的内容やコメントを添えて廊下に設置するようにした。また、南日本新聞のオセモコ通信や児童の取り組んだ作品などを掲示し、児童が意識して読める場を設定した。



【写真7 新聞の設置の仕方の変更（委員会と連携）】



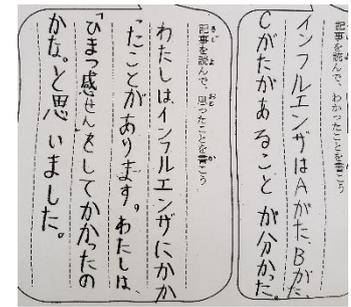
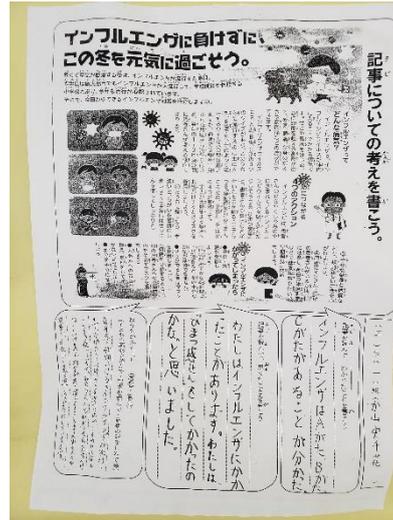
【写真8,9,10 オセモコ通信の張り出し】

(6) 親子での取組（ファミリーフォーカス）

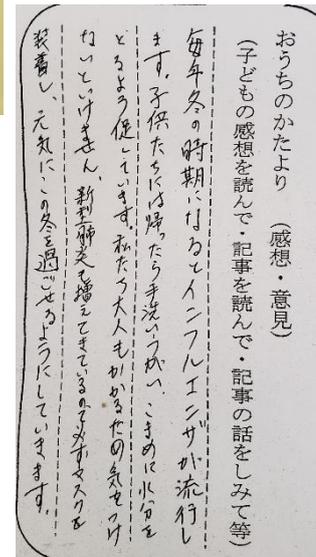
今年度は、昨年度の反省を踏まえて、中学年以上で行うことにした。実施回数は学期1回の計3回実施した。中学年は教師側でいくつか記事を選びその中から児童に選ばせ、高学年は自分たちで記事を選び取り組んだ。昨年度同様に各学級1枚ずつ提出してもらい「広がれ家族の話・和・輪」として階段の踊り場に掲示した。児童は、教室移動の際など、関心をもって掲示物を読んでいた。



【写真 11, 12 ファミリーフォーカスの掲示】



【写真 13 児童のコメント】



【写真 14 保護者のコメント】

4 成果と課題

(1) 成果

- はがき新聞への取組をある期間だけの取組から年間を通した取組にしたことで、限られた文字数でまとめる力が児童についてきた。
- 研究テーマと関連づけて実践することで、昨年度よりも職員がNIE活動に積極的に取り組むことができた。
- 新聞本体の掲示よりも、児童に興味関心のある記事を選ばせて掲示したりオセモコ通信を掲示したりすることで、児童が記事に興味をもって読む姿が昨年度よりも増えた。

(2) 課題

- 教科書が改訂され、単元配列や内容が変わったので、それに合わせた新聞活用や新聞記者の活用をする機会の見直し。
- NIE活動をより負担なく、日常的に実施していくための手立て。
- 職員のNIE活動に対する意識改革。NIE活動は児童の学力向上のための手段の一つであるということ。